

基本目標1 あらゆる分野への男女平等参画の推進				
施策(1) 男女平等意識の形成				
取組の方向性①男女平等参画を推進する広報・啓発活動の充実 ②男性への男女平等参画の取組 ③教育における男女平等意識の形成に向けた取組				
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
1	1 男女平等参画に関する情報提供	メールマガジンの発行回数と受信者数を示して欲しい。	配信件数は17件、登録者数は779件です。(令和5年3月末時点)	人権・多様性推進課
2	2 男女平等推進フォーラム	参加者数を明示してほしい。	ワークショップ(2日間):延べ293名、講演会:54名	人権・多様性推進課
3	4 男性の育児への参画に向けた取組	「男性のための育児教室とネットワークづくり支援事業」に関しては、ネットワーク形成に至った人たちはいるのかどうか、追っているのか?事業目的がそれであるなら、書いてほしい。その他の講座実施についても、実施回数しか書かれていないが、参加者数も明示してほしい。	今回の事業ではネットワークへの参加の強制ができず、参加者同士で連絡先交換を任意で行う場面はあったものの、その後の継続状況の確認には至っていない。家事・子育て・介護への参加・地域活動への参加、ネットワーク構築と設定されたテーマが多く、ネットワーク構築に関しては、課題が残った。今後の検討を要すると認識している。(人権・多様性推進課) 幼児家庭教育学級:4団体で実施、延18日、132名が参加しました。主に乳幼児を子育てする保護者を対象に、パートナーと共に考え育児をすることの重要性や、両親としての役割を二人で協力して行っていくための知識やスキルについて内容に含め、男女共同参画の推進を行っています。(生涯学習課) お父さんのための講座参加人数 令和4年度957人 内訳(日本堤351人、台東62人、寿507人、谷中37人)(子ども家庭支援センター) ハローベビー学級 実施回数46回 参加組数529組 父親参加組数518組(97.9%) (保健サービス課)	人権・多様性推進課 生涯学習課 子ども家庭支援センター 保健サービス課
4	6 男女平等を進める幼児教育の推進	昨年に引き続き、今回も「適切に指導」「心がけている」「平等に選べるようにしている」などの抽象的記述が行われているが、「どのように」そうしているのかについて具体的に書いていただきたい。	「こっこ遊び」の際、男性は「青」女性は「赤」などの色分けをしたり、「制作」の際、男性は「車」女性は「人形」などの「こうあるべき」といった固定的なイメージに基づいて子どもの性別などにより対応を変えるなど、こうした意識を子どもに植え付けたりすることがないよう、十分に配慮した保育を行っている。また、保育士自らが自己の価値観や言動を顧みる機会を、園内研修等を通じて設けている(児童保育課) グループ活動・遊びにおける男女混合、掲示物等について性別による色分けをしない、呼名について性別に関係なく「さん」付けにするなど、あらゆる場において性別による区別のないよう保育・運営している。(放課後対策担当) 学習発表会において、女性役を男児が演じるなど、性別に関わりなく選べるようにしている。(指導課)	児童保育課 指導課

5		「多文化共生プラン策定委員会」が令和5年4月より委嘱無しとなった理由は何ですか？	多文化共生推進プラン策定委員会については、令和3年度にプラン策定を以って終了となった。以降は多文化共生推進連絡協議会にて、プランの進捗管理や多文化共生推進に関する情報共有を行っていく予定。	人権・多様性推進課
6	7 男女平等を進める人権教育の推進	「適切に対処している」という判断根拠は何か？明示してほしい。	児童生徒や保護者より要望のあった場合など、個に応じた指導を行う。	指導課
7		「青少年教育の推進」の延べ日数と参加者数が掲げられているが、当該「青少年教育」の中で、どのように男女平等を進める人権教育を行っているのか具体的に示してほしい。	小学4年生から高校3年生までの異年齢集団におけるレクリエーションや野外活動を通して、性別にかかわらず、自主性・社会性・創造性を身につけられるように、青少年の育成を行っています。	生涯学習課
8	8 男女平等に関する教職員の研修	「人権教育研修会や生活指導主任研修において、子どもの権利等について取り上げている」という記述は不適切である。この項目は「男女平等」についての研修が行われていたことについて具体的に記述してほしい。	様々な研修において、校則の見直しや男女混合名簿、体育における男女共習について取り上げた。 研修の例) 校園長研修、副校園長研修、人権教育研修会、生活指導主任研修	指導課
9	9 性別にとらわれない進路指導	「性別に関わりなく進路の選択ができるよう進路指導を行う」（事業内容）と「発達段階に応じたキャリア教育を実施している」（実施状況）は説明が不十分、ないし、ズレがあるのではないかと？R3年度末には中止になっていた職場体験は、R4年度も実施できなかったということか？	令和4年度より都立高校の男女別定員が緩和させることなどを説明。 令和4年度の職場体験については、方法を変更して実施。コロナ禍により、実際に訪問できない場合、学校に来ていただいたり、オンラインで実施したりした。	指導課
10		台東区立の小中学校における男女混合名簿の現状を示していただきたい。	全小学校・中学校7校中1校で採用。 (令和5年4月からは全小中学校で採用)	指導課
11	10 男女平等を進める啓発の推進	保健予防課が3年連続該当なしとなっているが、担当課となっているのであれば、該当なしとはならないのでは？理由や今後の予定などを教えていただきたい。	下記のとおり訂正いたします。 <区内小中学校でのHIV・エイズ講演会> R2年度 1回 24名 R3年度 4回 561名 R4年度 3回 296名 R5年度 5回（予定） ※別途区立学校教員向け講演会1回実施予定 確認が不十分で大変申し訳ございませんでした。	保健予防課
12		DV防止講座の参加者数の記載がなくなっているので、記入してほしい。	令和4年度 DV防止講座参加者数 11名	人権・多様性推進課

13	11 男女平等を進める家庭教育の推進	<p>単にイベントを開催したという事実を書くだけでなく、それぞれが「どのように」男女共同参画、ジェンダー平等、男女平等と関係しているのかをすべての事業について具体的に書いていただきたい。（ただし「LGBTをはじめとする多様な性」動画配信を除く）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権のつどいの開催 「女性の人権を守ろう」と掲載された人権啓発冊子「みんなへの人権のメッセージ」の配布 ・人権パネル展の開催 女性の人権問題が掲載された人権啓発冊子「人権ハンドブック」を配布 ・人権尊重教育研修会の実施 講義の中で女性の人権問題を取り上げ、アンコンシャス・バイアスの例題やプランについても紹介した。 ・人権講座（動画配信）の実施 「犯罪被害者遺族からの提言～つながれ つながれ いのち～」については関係ありませんでした。申し訳ありません。（人権・多様性推進課） （親子遊びプログラムについて） 親子のふれあいと交流、遊びの場を提供する目的に、性別に捉われず、父母双方にとって参加しやすいプログラムを実施している。また、比較的参加が少ない父親の参加をより促すよう、父親を対象としたプログラムも実施している。（子ども家庭支援センター） 男女関係なく保護者への育児支援のための動画を作成配信した。（保健サービス課） 「小学校へのかけはし懇談会」では、幼稚園・保育園・こども園に講師（研修支援専門員）を派遣し、5歳児の保護者を対象として、インクルーシブな環境づくりを念頭に、家庭の果たすべき役割についての講話を行っている。（教育支援館） 家庭教育学級については、パートナーと一緒に考えて育児をしていくことの重要性や、子どもたちにも多様性を理解してもらうことをテーマにした家庭教育学級を開催し、男女共同参画やジェンダー平等を推進しています。（生涯学習課） 	<p>人権・多様性推進課 子ども家庭支援センター 保健サービス課 教育支援館 生涯学習課</p>
	<p>その他のご意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン併用でもこの参加者数というのは少なく、残念である。この講座だけでなく、センター主催の講座などへの参加者が少ない問題は、広報のやり方と関連しているものと思うので、台東区として、あるいは、センターとしてFacebookなどのSNSを利用することを考えてほしい。（人権・多様性推進課） ・人権・多様性推進課の「多文化共生推進連絡協議会」の開催頻度は少ないと感じる。（人権・多様性推進課） 	

施策（２）意思決定過程への男女平等参画の推進					
取組の方向性①審議会等への男女平等参画の推進 ②区民が立案・参画する機会の増加 ③区民の社会・地域活動への参加の促進					
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課	
14	16 シニア世代の地域活動支援	【令和４年度末会員数】とあるが、何の会員数なのか示してほしい。	シルバー人材センターに登録している会員数です。今後記載するようにします。	高齢福祉課	
15	16 シニア世代の地域活動支援	高齢者向け「再就職準備セミナー」「生涯現役！シニア期に向けた暮らしと働き方セミナー」参加者について、性別の内訳を明らかにしてほしい。	「再就職準備セミナー」参加者数：24名（性別の内訳：男性9名、女性13名、未回答2名） 「生涯現役！シニア期に向けた暮らしと働き方セミナー」については、募集の時点で性別を伺っていないため、記載することができない。	産業振興課	
16	18 いきがいづくりと社会参加への支援	事業への参加が個人である場合、性別の内訳を明らかにしてほしい。	寿作品展覧会の来場者については、性別による集計をおこなっていないため、内訳は不明です。（健康課） 参加人数の合計のみカウント・集計を行っており、男女別の内訳についてはデータを持ち合わせていない。（高齢福祉課） 障害福祉課が支援を行っている区内障害者団体の自主事業は、参加者が障害者団体加入者であるため、当該意見には該当しません。（障害福祉課） 松が谷福祉会館（社会参加援助）として実施する事業は男女別で募集をする事業の実施はありませんが、現時点では教室やサークルを総合すると若干女性が多く参加しています。（松が谷福祉会館）	健康課 高齢福祉課 障害福祉課 松が谷福祉会館	
	その他のご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・事業番号15～18「区民の社会・地域活動への参加の促進」における様々な支援活動の内容は、適切な施策であると思いました。（人権・多様性推進課、生涯学習課、産業振興課、高齢福祉課、区民課、健康課、障害福祉課、松が谷福祉会館） ・「障害者自立支援センター」による社会参加援助事業について、参加者の性別の把握をしてほしい。障害女性は、障害と女性であることにおいて、二重の困難を抱えることがあり、把握は特に重要である。（松が谷福祉会館） 			

施策（3）男女平等参画の視点に立った防災・復興体制の確立

取組の方向性①男女平等参画の視点に立った防災・復興対策の推進

NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
17	19 男女平等参画の視点による防災対策の推進	避難所運営委員会について、昨年委員の数と性別について出すよう希望したが、今年度も記入が無かった。記入して欲しい。	避難所運営委員会の委員の数については、約1,800人となっていますが、性別については統計が無いため、回答することができません。	危機・災害対策課
18	20 防災・災害復興分野への女性の参画推進	「男女共同参画の視点は災害対応力のカギ！～災害関連死の防止と受援力を高めるために」の参加者の性別を記入してほしい。	性別は伺っておりません。	人権・多様性推進課
19	21 防災に関する知識の普及、啓発	どのように男女共同参画視点があるのか、記述を加えてほしい。	区が実施している防災指導者講習会等の開催、各種パフレット等の配付では、災害に対する知識の普及、啓発であり、特段、男女平等意識、参画が求められない事項と考えているが、女性の視点からつくられた「東京くらし防災」は積極的に配付している。今後、配布物を作成する際には、災害対応も男女平等であることの記載や使用するイラストに配慮していく。	危機・災害対策課
20	22 災害発生後における相談・支援体制の整備	各種相談件数について挙げられているが、この事業は災害との関連でのものなので、可能ならば災害関連での相談がどのくらいあったのか、書いて欲しい。書けないのであれば、相談を受ける側が、災害についての相談に対応するために行っていることについて、記述してほしい。	令和4年度に災害関連の内容の相談件数はなし。災害についての相談に対応するための取組は行っていない。発災時の様々な相談の立上げ等に関することについては、区全体として包括的、具体的に計画していくと思われる。	人権・多様性推進課
	その他のご意見			

基本目標2 職業生活における女性の活躍推進				
施策(4) 女性の就業・登用・起業の機会拡大				
取組の方向性①働き方の変革と女性の活躍推進に向けた事業者等への取組の支援 ②女性への就職・再就職支援、起業支援、キャリア形成支援 ③区における働き方の変革と女性の活躍推進				
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
21	27 女性創業者・メンター交流会	昨年、交流会は5回実施され、7人参加と書かれているが、毎回7人だったのか、全体で7人だったのかなど、詳細が不明であったので、回答を求めた。今年度も詳細を記入していただきたい。	本交流会は、令和4年度も5回開催し、全体では10人の参加者であった。なお各回では当日欠席者もあり7人～9人の参加であった。	産業振興課
22	28 起業家・若手経営者支援	「起業家・若手経営者支援」は性別を問わないものなので、参加者の性別情報は有益であるので記入して欲しい。事業番号27と比較して、利用のしやすさ/しにくさがわかる資料となるのではないか。	現在、参加者の性別を確認していません把握していません。	産業振興課
23	29 雇用・就業相談	相談件数の内訳を提示すべきである。個人と企業の内訳、個人は性別と年齢、内容(就職、再就職)、両者のクロス集計も出してもらいたい。	令和4年度相談件数:138件(雇用相談0件、就業相談138件) *就業相談138件の内訳/性別:男性34件、女性103件、不明1件、年代:50代未満37件、50代以上96件、不明5件、相談内容は「就職活動経過報告」が37件と最も多い。 なお、相談者の状況を全て聴取するわけではないので、クロス集計は困難である。	産業振興課
24	30 障害者の就労支援	「登録者」の性別内訳、「利用実績」の性別内訳を明らかにしてほしい。就労を希望する障害者の性別情報把握は非常に重要である。	令和5年度3月末時点登録者数(男性 223名、女性118名) 利用実績については性別ごとに集計を行っていないため、回答できません。(障害福祉課) 性別の統計はとっていません(保健予防課)	障害福祉課 保健予防課
	その他のご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍推進企業データベースへの域内掲載企業の数(23・8・2時点で299企業)、えるぼし認定企業の数(同12企業、うち6企業が「男女間の賃金の差異」を公表している)、「男女間の賃金の差異」をこのサイトで公表している企業の数(同67企業)、を毎年報告し、この数が増えるよう働きかけてほしい。(産業振興課、人権・多様性推進課) ・事業番号28～30、男女別の人数の内訳を出し、女性が顕著に少ないような状況があれば、女性に届く方法を検討する必要があるのではないだろうか。(産業振興課、障害福祉課、保健予防課) ・女性への就職・再就職支援、起業支援、キャリア形成支援、そして障害者の就労支援においては「台東区市民後見人選任委員会」の開催頻度を増やして、支援拡充策の充実をより促進していただきたい。(福祉課、産業振興課、障害福祉課、保健予防課) 		

施策（5）ワーク・ライフ・バランスの実現				
取組の方向性①ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発 ②ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた企業等への支援 ③出産・育児・介護に対する職場の理解の促進				
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
25	33 ワーク・ライフ・バランス推進のための講座	働き方セミナー、「ファシリテーション入門」講座の受講者の性別内訳を明らかにしてほしい。	「ファシリテーション入門」講座：性別は伺っておりません。（人権・多様性推進課） 「働き方セミナー」参加者数：11名（性別の内訳：男性6名,女性3名,未回答2名）〔産業振興課〕	人権・多様性推進課 産業振興課
26	34 ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発	・ワーク・ライフ・バランス推進企業について、ここに記すとともに、毎年の審議会で状況を報告してほしい。	令和4年度末時点の認定企業数：22社（うち、令和4年度新規認定1社、更新認定12社）	人権・多様性推進課
27	35 企業における両立支援事業の紹介	「両立支援等助成金」の受給状況を記述してほしい。受給がなければそれも明らかにしてほしい。	台東区内の中小企業が外部の専門家を活用し、職場のワーク・ライフ・バランスを推進する場合にコンサルティング費用の一部を助成している。令和4年度助成実績は4件です。	産業振興課
	その他のご意見			

施策（6）子育て世代・介護者への支援				
取組の方向性①多様な子育て支援サービス・保育サービスの充実 ②子育てに関する支援者の育成 ③子育て世代の居場所づくり、ネットワークづくりの支援 ④ひとり親家庭等への支援 ⑤介護者への支援				
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
28		多様な保育ニーズへの対応策は、令和3年・4年と経過を見ると、利用者の増加が目立ち、支援施策の有効性が実感できました。一方、保育・子育て支援サービス等についての審議会は開催されているのでしょうか？	保育・子育て支援サービス等については、次世代育成支援計画に基づき実施しております。また、その内容や評価については、台東区次世代育成支援地域協議会にて、学識経験者・地域団体の代表・区民委員のご参加を頂き審議、報告等を行っています。（児童保育課） 保育や一時預かり事業は、次世代育成支援計画に基づいた取組みとして実施しています。その内容については、次世代育成支援計画の基本的な考え方及び体系を所掌している台東区次世代育成支援地域協議会にて、審議、報告等を行っています。（子ども家庭支援センター）	児童保育課 子ども家庭支援センター
29	37 保育・子育て支援サービス	子ども家庭支援センターによる事業についての利用状況が記述されていないので、書いて欲しい。新規事業である「ベビーシッター利用支援事業（一時預かり利用支援）」についても、利用状況を書いていただきたい。	●ショートステイ R4年度 利用泊数・回数 152泊（222日） 送迎利用 149回 ●いっとき保育 R4年度（実施施設2か所） 登録者数 857人 利用回数 3,272回 利用時間 16,488.5時間 ●ファミリー・サポート・センター R4年度 会員数 3,639人 援助活動件数 年4,881件 ●ベビーシッター利用支援事業（一時預かり利用支援） R4年度（R4.7月より事業開始） 延べ利用件数 3,437件 利用保護者数 284名 利用児童数 325名 延べ利用時間数 14,400時間52分	子ども家庭支援センター
30	38 認可保育所等の整備	新規開園の認可保育所の件数だけでなく、定員も記述してほしい。	令和4年度開設3園（合計定員：242名）、令和3年度開設2園（合計定員：143名）になります。	児童保育課

31	41 子育て相談	<p>複数の子育て相談を実施し、多数の利用があり心強いが、相談内容の分析はどのように行われているのか？そこからの政策や対応へのフィードバックについても記述して欲しい。また、その際、母親、父親、それ以外など、相談者のカテゴリや年齢について把握しているのかも書いて欲しい。</p>	<p>相談内容に関しては、経年の傾向の把握をしながら、適切な支援につなげるよう努めています。また、相談の量や内容を分析する中で、相談職員体制の強化やベビーシッター事業をはじめとする新規事業を展開しています。なお、相談者のカテゴリは保護者・児童となっているため、母親、父親、それ以外での把握はしていません。</p> <p>令和4年度相談件数内訳 日本堤（保護者：3,158件、児童740件）（子ども家庭支援センター）</p> <p>くらしの相談課の各種専門相談では、相談内容の項目や年齢層について把握しているが、相談者のカテゴリについては把握していない。相談内容の分析については、内容を種別ごとにして集計し、統計に反映させ、種別ごとの相談内容や傾向の把握・分析を行っている。（くらしの相談課）</p> <p>出張育児相談等での相談内容については主催分は把握し、それを基に事業の実施方法の検討をし、健康教育のテーマを決定する際の参考にしています。相談内容については児の月齢・年齢に着目しており、保護者を属性で分けることはしていません。（保健サービス課）</p> <p>相談状況について、相談内容（主訴）や子供の年齢、紹介経路、相談後の対応等を項目別に整理し、年度単位で傾向を把握している。相談状況から支援内容や体制を見直したり、関係機関と共有し連携を強化している。相談者は母親が多いが、両親で来所するケースが増加している。（松が谷福祉会館）</p> <p>相談内容について統計をまとめている。相談内容によっては、各関係機関と連携し、問題の解決を図っている。相談については、基本子ども本人か保護者が行っており、相談者カテゴリについては個別に記録を残しているが、性別毎に統計としてはまとめていない。年齢については、子ども本人の年齢を把握している。（教育支援館）</p> <p>在園児の保護者からの相談が大半であり、相談者の内訳は把握しており、相談内容については、毎月集計をしている。相談については、園で対応したり必要に応じて他機関を紹介したりしている。また、必要に応じて相談後も継続して声を掛けるなど見守りをしている（児童保育課）</p>	<p>子ども家庭支援センター くらしの相談課 保健サービス課 松が谷福祉会館 教育支援館 児童保育課</p>
32	42 家庭教育支援者養成	<p>2つの「家庭教育支援者養成講座」の実施回数（3回と2回）と延べ参加人数（それぞれ18人と56人）が書かれているが、性別の内訳を明らかにしてほしい。家庭教育においては、保護者自身や子ども世代において固定的な性別役割分業が再生産されないよう注意が必要であり、講座の中でその点が踏まえられているか記述してほしい。</p>	<p>18名は全員女性、また56名については性別の内訳を参加者から聞き取りしていません。男女ともに対象とし、家庭教育を支援している団体もしくは支援をしていきたい個人に対して、手助けとなる知識やスキルを提供しています。講義の中では、性別による家事・育児分担が偏らないようにすることや、ワンオペ育児にならないためにパートナーとコミュニケーションをとりながら共に育児をすることの重要性についても内容に入れています。</p>	<p>生涯学習課</p>

33	43 およこサポート・ネットワーク	「およこる一む」の利用者が増加しており意義深い が、利用者である保護者の性別を明らかにしてほしい。 父親の利用も期待されている（パパも利用できる 「授乳室」があるとWebページでアピールされてい る）ので、利用実態を明らかにしてほしい。	保護者の属性の集計については、今後の課題といたしたい。	保健サービス課
34	46 ひとり親家庭ホームヘルプ サービス	利用実態が低調である（2年連続で一世帯となってい る）が、理由は何であると考えているのか？Webページ を見たが、利用手続きが煩雑であるということはない のだろうか？	利用実態が低調である理由の一つに、事業がセーフティネット の意味合いを持つため、また対象者の条件が恒常的なものでな く一時的な事情により該当するためと考えられるが、webペー ジの更新や広報を行うことで対象者に効果的に周知できるよ うに検討していきたい。	子育て・若者支援課
35	48 介護サービスの充実と質の 向上	利用者の性別内訳についても記述してほしい。また、 昨年度「台東区高齢者実態調査」が実施され、結果が 公表されているが、性別での集計が少ないままであ る。年齢別集計をしている質問においては、同様に性 別での集計を行ってほしい。	給付人数や延利用人数は月間合計のみカウント・集計を行って おり、男女別の内訳についてはデータを持ち合わせていない。 また、「台東区高齢者実態調査」結果の公表については、年齢 別や性別、包括別など設問に応じて判断して集計を行ってい る。公表する調査結果の全体量に限りがあることから、年齢別 の集計を行っている設問の全てに男女別の集計を行うことは難 しいが、次回調査時においては、いただいたご意見も踏まえな がら、各設問の集計方法を判断していく。（高齢福祉課） 性別の統計はとっていません(保健予防課)	高齢福祉課 保健予防課
	その他のご意見			

基本目標3 誰もが安心して暮らせる環境の整備

施策（7）配偶者等からの暴力の防止及び被害者保護

- 取組の方向性①DV相談業務の充実と関係機関との連携
②DV被害者の安全の確保と自立支援
③配偶者等からの暴力を防止するための取組

NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
36	49 配偶者暴力相談支援セン ターの運営	令和3年度に設置されていた、こころと生きかたなん でも相談や女性弁護士による法律相談は、令和4年も 継続実施していますか。また令和5年度はどうなっ ていますか	令和4年度、5年度も継続して実施しています。	人権・多様性推進課
	その他のご意見			

施策（8）あらゆる暴力の防止への取組

- 取組の方向性①ハラスメント防止のための取組
②ストーカー行為・性暴力等の防止に関する意識啓発と相談業務の充実
③若年層の性的搾取の防止に関する啓発

ご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都労働情報相談センター亀戸事務所等で12月に使用者向けにハラスメント防止セミナーを予定しています。共催、広報など、ご協力いただけましたら幸いです。 ・「はばたき21相談室」のカウンセラーによる心のケアや女性弁護士による法律相談の実施との関連性がよく理解できません。（人権・多様性推進課）
-----	---

施策（9）生涯を通じた男女の健康支援				
取組の方向性①女性の人生の各ステージに対応した健康支援の充実 ②生涯を通じた健康づくりの推進				
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
37	67 出産・育児準備期の健康	「ハローベビー学級」について、昨年同様、参加カップル数を明らかにしてほしい。	ハローベビー学級 実施回数46回 参加組数529組 父親参加組数518組(97.9%)	保健サービス課
38	70 高齢者の健康づくりへの支援	参加者の性別内訳を記してほしい。	台東区ゲートボール大会（ゲートボール促進） 申込者45名の内訳は男性23女性22名。当日参加者43名の内訳は不明。（健康課） 高齢者の健康づくり教室/11回 男性：40名、女性：121名 ふれあい介護予防教室/88回 男性：24名、女性：228名 地域の依頼による介護予防教室 把握していません 健康カラオケ教室/20回 男性：24名、女性：143名 うんどう教室/23回 男性：60名、女性：226名 老人福祉センター・老人福祉館・かがやき長寿ひろば入谷（脳トレ教室・介護予防運動教室・口腔機能向上教室）/延利用人数の月間合計のみカウント・集計を行っており、男女別の内訳についてはデータを持ち合わせていない。（高齢福祉課） 令和4年度より、予算事業名「台東学びの広場」内のカテゴリーの見直しを行い年齢で区切った講座の実施は廃止した。結果として、高齢者に限定したカテゴリーであった「シニアライフセミナー」は、なくなり、変更後のカテゴリーにて年齢の制限なく広く実施をしている。（生涯学習課）	健康課 高齢福祉課 生涯学習課
39	71 こころとからだの健康学習の推進	参加者の性別内訳を記してほしい。	性別は把握していません。	健康課
40	72 健康相談の実施	相談の参加者数を記入していただき感謝するが、さらに、カテゴリ（訪問・面接など）別、相談者の性別内訳を明らかにしてほしい。	訪問（2,207人）面接（683人）電話等（21,692人）性別の集計はしていない。 栄養相談 カテゴリ別：電話相談433人、面接540人 性別：男性201人、女性90人、不明202人（イベント等実施時の相談では性別集計をしていない）、乳幼児480人（乳幼児については性別の集計はしていない）	保健サービス課
41	73 精神保健福祉相談	相談の実施回数を書くのであれば、利用者数とその性別内訳も書いていただきたい。	【実施回数】57回 【利用者数】55人(延57人) 性別の統計はとっていません	保健予防課

42	74 性及び自己の尊重のための教育	<p>「全小中学校で実施」と書かれているが、「どのように」実施されているのか、具体的に記述してほしい。各学校の取組状況について把握しているのかも示していただきたい。</p> <p>2020年度「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を踏まえ、子どもたちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、全国の学校において「生命（いのち）の安全教育」を推進することになっており、文部科学省ウェブサイトで手引きや動画教材などがアップされている。文科省作成の教材は利用されているのか？</p>	<p>各校の取組状況について把握はしていないが、東京都の通知を受け、全校に周知している。</p> <p>管理職が会議等で教職員に対し、「生命（いのち）の安全教育について」等を活用し「生命（いのち）の安全教育」の趣旨を説明し、教材等を周している。</p> <p>教職員は、「指導の手引き」を読み、各段階に応じたねらいや展開、児童・生徒から相談を受けた場合の対応のポイント、指導上の配慮事項、障害のある児童・生徒への指導方法の工夫等について教職員間で意見交換するなどして共通理解を図った上で、児童・生徒の発達段階や実態に応じ、体育科、保健体育科、特別活動、教育課程外において指導している。</p>	指導課
	その他のご意見	<p>・台東区は「高齢者の健康づくりへの支援」については他の区と比較してかなり手厚い施策を実施していると思います。私自身も健康づくりトレーニングに週2回参加させていただき、とても感謝しております。今後とも施策の拡充と継続を望みます。（健康課、高齢福祉課、スポーツ振興課、生涯学習課）</p>		

施策（10）困難を抱える方への支援の充実					
取組の方向性①高齢者への支援 ②障害者への支援 ③外国人への支援 ④性の多様性に関する理解の促進と相談体制の整備					
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課	
43	76 高齢者の生活支援体制整備	地域支援の件数が掲げられているが、支援が必要だった高齢者の性別内訳を明示してほしい。	グループ支援のため、性別内訳の集計が難しいです。	高齢福祉課	
44	77 高齢者の総合的相談	相談者（件数）の性別内訳を記してほしい。	現在、性別ごとの相談件数は把握しておりません。（高齢福祉課） くらしの相談課の区民相談における各種専門相談では、年齢層、相談内容の項目、相談者の氏名は把握しているが、性別までは把握していない。なお、消費者相談では、年齢、相談内容の項目、相談者氏名、性別を把握している。（くらしの相談課） 性別集計は行っていない。（保健サービス課） 様々な相談に対して適宜実施しているが、相談者が、本人の他、家族やケアマネジャー、関係機関など様々であり本人との性別の差異も多いため把握できない。（介護保険課）	高齢福祉課 くらしの相談課 保健サービス課 介護保険課	
45	80 障害者相談支援	述べ相談件数の性別内訳を記してほしい。	利用実績については性別ごとに集計を行っていないため、回答できません。（障害福祉課） 性別の統計はとっていません（保健予防課）	障害福祉課 保健予防課	
46	82 在住外国人支援	日本語教室、日本語講座、相談など、受講者、相談者の性別内訳を記してほしい。	日本語教室及び日本語ボランティア講座については、申込書及び申込みフォームに性別を記載する項目を設けておらず、参加者の性別を把握していない。（人権・多様性推進課） くらしの相談課の各種専門相談では、相談内容の項目や年齢層について把握しているが、相談者のカテゴリーについては把握していない。（くらしの相談課）	人権・多様性推進課 くらしの相談課	
	その他のご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等推進との関係性がわかりにくい。実施状況の記載は、高齢者（や障害者）の人権施策全般についてではなく、男女それぞれの高齢期の困難に着目した取組みがあればそれを記載してほしい。 ・真心のこもった支援策を必要な方々に、タイムリーに提供していただきたいです。 			

【計画推進の基盤】ジェンダーの視点による区政運営の推進				
(1) 男女平等参画の総合的推進				
取組の方向性①全庁的な推進体制 ②職員に対する教育・研修体制の充実 ③施策・事業を推進するための評価体制づくり				
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
47	89 採用及び職域の拡大にあたっての男女平等の推進	採用者の男女別内訳を記載してほしい。	ホームページ上にある、台東区特定事業主行動計画の女性の活躍に関する情報公表(P2)で公表している。	人事課
48	90 管理職選考の受験の奨励	管理職選考の受験者は、毎年、総数、男女別数を明らかにしてほしい。	受験者数については、合格者発表時に総数・男女別数を全庁周知している。	人事課
49		台東区の特定事業主行動計画による情報公表 (https://www.city.taito.lg.jp/kusei/saiyo/jinji/tokuteijigyonushi.files/5josei.pdf)によると、一級職・主任から統括部長まで、開示されているすべての職層において、女性の割合は、「本庁」よりも「本庁以外」のほうが顕著に高いのですが(p.2)、これは何故なのか。説明できればお願いしたい。	女性職員の割合が高い福祉系や医療技術系職種の配属先が「本庁以外」に多くあるため、高くなっている。(例：保育園・保健所など)	人事課
	その他のご意見	・女性委員の審議会への参画状況調査を見ると、女性の参加者がゼロだったり、男性に比べ極端に参加人数が少ない審議会があります。何故なのか、私には理解できません。有効な是正策はあるのですか。		

【計画推進の基盤】ジェンダーの視点による区政運営の推進				
(2) 男女平等推進プラザの充実				
取組の方向性①区民との協働による活力ある運営 ②相談事業の充実 ③男女平等に関する取組の充実と認知度の向上				
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
50	96 男女平等推進プラザ登録団体との連携	講座参加者の性別について記載してほしい。	性別は伺っておりません。	人権・多様性推進課
51	97 男女平等を推進する人材の育成	講座参加者の性別について記載してほしい。	性別は伺っておりません。	人権・多様性推進課
52	98 はばたき21相談室	「こころと生き方なんでも相談」の電話と面接の内訳を記してほしい。また、3つの相談で男性からの相談はあるか？	①全体578件 電話308件 面接269件 オンライン1件 ②女性弁護士による法律相談は対象は女性のみ。その他の相談は男性からの相談も受けている。	人権・多様性推進課
53	100 男女平等参画推進講座	「男女平等参画推進講座」「区民学習活動支援事業講座」のそれぞれについて参加者の性別を記載してほしい。後者について参加者数が大幅に減少しているが理由は何か、説明があればお願いしたい。	性別は伺っておりません。 「区民学習活動支援事業講座」の参加者数の減少について、考えられる要因としては、講座数の違い(4講座と3講座)、オンライン併用で開催した講座数の違い(4講座のうち3講座が併用、3講座のうち1講座が併用)による参加者数の違いが考えられます。さらに、登録団体が企画する講座のため、各団体の特色が出やすく、テーマ設定や集客活動の有無等が影響していることも考えられます。	人権・多様性推進課
	その他のご意見	・男女平等推進プラザのさらなる周知徹底とPR推進と魅力ある内容の提供を促進するしかありませんね。(人権・多様性推進課)		
【計画推進の基盤】ジェンダーの視点による区政運営の推進				
(3) 国・東京都・NPO等との連携				
取組の方向性①国・東京都・NPO等との連携				
NO.	事業番号	主な意見及び質問事項	考え方及び回答	回答担当課
	その他のご意見	・台東区内の各町内会や大規模マンション管理組合との連携も視野に入れてみたらどうでしょうか。(人権・多様性推進課、区民課)		

全体への意見

1	<p>具体的な回数や参加人数等を提示して下さった所管課が多く、各施策についての取り組みの状況が(推進の難しさを含めて)よくわかりました。その分、抽象的な表現が多い指導課の記述が気になりました。学校教育については様々な個別事情もあることから、積極的な説明や提示に慎重にならざるをえないことは十分に理解いたします。ただ、進捗管理はダメ出しや非難を目的にするものではありません。ジェンダー平等を推進する上で学校が抱える現状と課題・困難について他部署や区民と共有することは、学校現場がサポートを得るためにこそ重要であると考えます。すべての学校が足並みを揃えることが難しいことは容易に想像できますので、積極的な学校の取り組みを中心にしてでも、もう少し現状を説明いただければと思います。</p>
2	<p>様々な相談の件数が増えていることが気になりました(事業番号22、41、50、53など)。この件数がコロナ前に戻っているのか、コロナ前より増えているのか、前年度比だけでは判断がつかない部分もありますが、相談員の方々が相談を受ける中で感じておられる社会状況や相談者等の認識の変化、話題にあがる内容や相談の質の変化などがあれば、客観的指標はなくても何らかの形で聞かせていただきたいと思いました(個々の事業内容や対応結果への関心ではありません)。個々の相談から世情の変化をいち早くつかみ、先行して対応する上で、他施策にとっても貴重な情報・気づきになると考えます。</p>
3	<p>昨年度、「『ジェンダー主流化』のためには、ジェンダー統計が基盤となるので、サービスの受給者、講座や研修、相談などの参加者について、可能な範囲で参加者(相談者)の性別を把握し、報告して欲しい。困難な場合には、その理由を記してほしい」としたが、実現していない。また、すでにインターネット上に公表されている「評価」においても、「総評」において「『すべての施策と事業がジェンダー平等の視点に立って行われること(ジェンダー主流化)』の重要性及び、ジェンダー統計の重要性についての「はばたきプラン21推進会議」における意見を、施策を実施する担当課に周知し、ジェンダー平等の視点を持って進捗状況の報告を行ってほしい」としたが、今回の文書を見るとまったく実現していない。各担当部署が記入してきたエクセルファイルの末尾に、依頼文が記載されているが、そもそもこの依頼文が不適切である。何故こうした依頼文になっているのか、説明をお願いしたい。</p>
4	<p>資料として、「ジェンダーの視点による各課の取り組み」が提出されているが、進捗状況文書に反映されていない。こうした形で別記していただくことはよいことと思うが、審議会で行っているのは計画進捗状況のモニタなので、事業レベルでの報告においても、記述していただくことが必要である。さらに、この文書の記述については、ここに問題が認められる。例えば介護保険課は、「窓口対応時等、様々な場面で性別による対応の違いが無いよう意識して行っている」としているが、それは当たり前のことであって、こちらが求めているのはそれだけではない(サービス対象者が性別の偏りがないか、また、性別によつてのニーズの違いがないかを調べていただきたい。そのために性別の内訳を出していただくよう求めているのである)。高齢福祉課は、自分の所管する計画について述べているが、この審議会では、男女共同参画基本計画に基づいて進捗状況について述べることを求めているのに、それが理解されていないと思われる。この文書に掲載するのは不適切な内容である。</p>